

悩まなくてもだいじょうぶ



知っておきたい アレルギーの話

NPO法人アレルギーを考える母の会
代表 園部まり子



岩手県釜石市内で（7月1日）

第23回

再び被災地を訪ねて

✿ 空気が悪くて

マスクが欠かせない

東日本大震災の発生3月11日から約5カ月が経過しました。連載の第20回で、震災1カ月後に訪れた宮城県仙台市と周辺の被災地、避難所の様子を報告しました。現地では今、どんなことが課題になっているのか、今回はその後を訪れた被災地の状況を報告したいと思います。

6月30日から7月2日にかけて、岩手県釜石市、大船渡市、陸前高田市、宮城県気仙沼市を訪れて、学校保健や保育、健診を担当する方々と会い、避難所や仮設住宅も訪ねました。極めて大きな被害を受けた陸前高田市の教育委員会は、「コンテナハウスで仕事を続けていました。市の

職員もたくさん亡くなった中で、同市では6月になってようやく他地域からの医師の応援を得て学校健診を実施できたこと、季節ではないのに花粉症や喘息のような症状の子どもがたくさんいて心配していることなどをうかがいました。

被災後4カ月の時点で、地域によって状況はかなり異なっていました。がれきの処理が進まず建材のくずなどが舞っている地域もあれば、がれきの撤去が進んだ地域では、風が吹くと前が見えなくなるほどの砂塵が舞い上がっていました。陸前高田市だけでなく「空気が悪くてマスクが欠かせない。子ども用のマスクが足りない。鼻炎、流涙、咳が心配な人が多く、肺の病気が心配」などという声が多く聞かれました。



そのべ・まりこ ● 神奈川県社会福祉協議会セルフヘルプ支援事業運営委員。困っている患者と専門医との橋渡しを第一に「治療ガイドライン」情報などの提供、専門医による講演会や会報発行、行政への働きかけを行っている。共著に『食物アレルギーの手びき 改訂第2版』（南江堂刊）。

✿ 将来にわたる

健康被害を防ぎたい

訪問した自治体からは今、情報提供などの協力依頼が相次いでいます。将来にわたる健康被害を引き起こさないためにできる支援は何か、専門医と被災地の橋渡しを含め、息の長い支援を続けていきたいと思っています。